

今月の PICK UP

『「コーダ」のぼくが見る世界』 五十嵐 大／著 紀伊國屋書店 369.21



「コーダ」とは「Children of Deaf Adults」の頭文字(CODA)を取った言葉であり、「耳が聴こえない、あるいは聴こえにくい親のもとで育った、聴こえる子どもたち」を意味します。本書はそんな耳が聴こえない両親のもとで育てられた、コーダである著者の思いを綴った1冊です。

親との関係で感じたもどかしさ、無理解な第三者からの言葉による傷つき、「コーダ」という言葉を知ったときの安堵感——。著者の葛藤や体験を素直に書いた文章は読みやすく、様々な気づきを得ることができます。特に、無意識に持っているかもしれない差別の芽を知ったとき、目を開かれる思いがします。

『ぶらり謎解き浮世絵さんぽ』 牧野 健太郎／著 エクスナレッジ 721.87



この本は、ボストン美術館所蔵の「スポルディング・浮世絵コレクション」をデジタル化したものをもとに、浮世絵の魅力を紹介しています。作品を拡大することで浮世絵に登場する人物や風景に隠された秘密が解き明かされていき、江戸の生活や文化をより身近に感じることができます。また浮世絵製作に携わった職人たちの高度な技術にも圧倒されます。さあ、タイムトリップして江戸の街並みをさんぽしてみませんか。

司書の
おすすめ



『パフェの教本』 富田 佐奈栄／著 旭屋出版 596.6ト

いちごの季節到来！ 本書には、いちごのパフェだけでも10種類、他にも絵や文字が描かれたアートパフェ、アルコール入りの夜パフェなど、定番から最新のものまで77品のパフェのレシピが紹介されています。カフェのオーナーや開業をめざす方向きですが、盛り付けのコツやフルーツのカッティング術も分かりやすく、ご家庭でも作れると思います。全ページカラー写真なので、眺めているだけでも楽しめます。



『葉っぱ切り絵 いきものずかん』 リト@葉っぱ切り絵／著 講談社 726.97



本書では、1枚の葉の中で、生き物たちの切り絵物語が繰り広げられます。例えば「本場の味を熱々のうちに召し上がれ」と言いながらたこ焼きを焼くタコや、「道路はシマシマの上を渡りましょう」と横断歩道を渡るシマウマの親子など、細かい切り絵作品に驚かされます。巻末には、葉っぱ切り絵の技法が紹介されていますので、挑戦してみたい方が多いでしょう。

『一年一組せんせいあのね』 鹿島 和夫／選 ヨシタケ シンスケ／絵 理論社 K9111

この本に集められた詩は、すべて小学校1年生のこどもたちのことば。小学校の先生だった鹿島和夫さんが、こどもたちと日々やり取りしていた日記ノート《あのね帳》から生まれたことばたちです。くすっと笑えたり、どきっとしたり、ジーンと感じ入ったり、こどもたちの素直なことばがまっすぐに心に響きます。

今年も4月がやってきました。あちこちの教室で、さまざまな「せんせいあのね」が生まれていることでしょう。

【児童室にあります】

